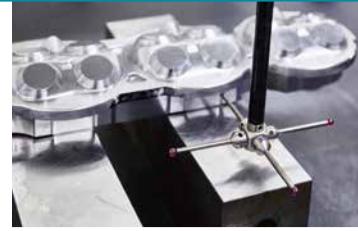




検査機器などミクロン単位の精度を実現する組立技術（村上精機）



歯車の精度を測る試験機をはじめ各種検査機の心臓部となるバーツを製造（村上精機）



機械では実現できない高精度平面加工を職人の手でおこなう「きさげ技術」（村上精機）



早くからベトナム人の雇用をはじめ、現在では20名以上が働いている（村上精機）

だから今がチャンスなんです。移転を急いだのは、息子が就任してすぐにこういった大事業をするのは大変だからです。農地がなければ作物は育ちません。もちろんつくるのは人ですが、せめて農地は用意してやろうと。

福地 親心ですね。人材育成はどうされていますか。

村上 現在、当社の主力となっているのはベトナム人なんです。50人の従業員の半数以上がベトナム人です。彼らは優秀な大学を出た人ばかりで、頼もしい戦力に育っており、彼らが息子の右腕になることを願っています。



福地 従業員によく言うのは「工夫や発想、アイデアで役に立とう」ということ。最先端の技術はなくとも、うちの社員が一所懸命考えたことが、誰かの役に立つ場面は必ずあると思うんです。そのためには基礎が必要になる。だから今、将来甥をサポートしてくれるであろう20代の社員が中心になって、毎朝就業前の30分を使って「勉強会」をしています。

村上 時代の流れは早く、日々特殊な技術が生まれており、さまざまな最先端の知識が求められます。高付加価値な仕事に挑むために、人材育成は最重要課題です。私も就任してからは、月曜朝の全体会議のあと勉強会を開いています。今年3月に、航空宇宙品質マネジメントシステム規格「JISQ9100」の認証を取得したのも勉強の一環です。従業員全体の知識を高めることで、その仕事が取れなくとも準ずる仕事は必ず取れますし、個々の成長にもつながるのでこの勉強会は大切にしているんですよ。

福地 私は今年で62歳になりますが、70歳で引退を考えています。村上さんはどこまで責任を持とうと思われていますか？

村上 70歳で勇退ですか。そんなにはっきりと決めてらっしゃるんですね。

福地 あと8年の間に、後継者が自分たちで考え方針を決めて進んでいってもらいたい。そのためにはきっちり期限を定めることで、彼らも目標を立てやすくなります。それと顧客からみたとき、社長がある程度若くないと不安だろうというのもあります。

村上 現在私は59歳で、最終的には福地さんがおっしゃるように、70歳くらいまで頑張らないとダメかなとは思っています。

ものづくりの姿勢や想い、挑戦することの面白さを伝えたい。

—承継、すなわち「継ぐ」ということは、企業の運営を続けていくことでもあります。企業が続いていくためには何が大切だと思われますか？

福地 当社は冷間鍛造がコア技術ですが、どの会社でもこれさえあれば絶対安泰という技術はないと思っています。この仕事を40年やってきて、いくら計画を立ててもその通りに進まないことも分かった。ですから変化に対応する姿勢こそが大切。状況を見て知恵を出し合い、相手によって役立ち方をフレキシブルに変えることができる運命共同体と思える社員がいる限り、会社は潰れないと考えています。「持っているもの（考え方や行動）は出せ」とよく言うんです。手を抜いたりいい加減なことをすると。はじめにお客さんのことを考えて努力することが、なにより大切です。

村上 それと組織力ですね。私が就任したときには、父の代からいた方々を差し置いて、自分が育てた部下を引き上げて組織を再編しました。だから団結力もあり、業績も右肩上がりで伸び続けました。リーマン・ショックのあと大手の仕事がなくなったときも、従業員のなかから自発的に「ISOを取得して、いろんな

仕事を取ろう」という声が上がりましたから。

—最後に後継者に託す夢や想いをお聞かせください。

福地 村上さんの会社のように大手企業と取引したり、ロケットに関わる仕事をされているのは夢があって非常に羨ましい。小さなもののづくり企業は夢を持ちにくいでから。でも、ふと考えが変わった時があって。朝礼である社員が「家族で焼肉に行くのを娘がとても楽しみにしている」という話をしたんです。せめて焼肉を月イチで行けるようにしてあげるくらいはできる。そんなちっぽけなものでも、夢を持つことは生きる力になる。甥にも、そういう気持ちを聞いてあげられられる人間になって欲しい。

村上 自分が製作したものを展示会で見て誇りに思うとか聞きますが、そんな華やかな部分だけでなく、個々のものづくりで精度の高いものに取り組んで達成したときこそ、職人冥利に尽きると思うんです。それと私は仕事＝挑戦だと思っていて。できないとしたらお終いで、どこかで必ず誰かがやっている。自分たちも努力すればできるはず。だから絶対NOとは言わないチャレンジ集団でいたいし、それは息子にも忘れないで欲しい。

福地 そうですね。村上さんとスタンスは同じです。私も冷間鍛造の世界では、少量や短納期を絶対できないと言わない。そこで負けたら、自分たちの居場所はないですから。厳しい条件でもいかに工夫できるか。加工・溶接・金型の会社、みんな同じ想いでもつけています。

村上 それはすごく共感します。私たちもそういう想いでずっとやってきましたし、今後もその想いがなくなったらダメだと感じています。

福地 先日89歳で父が亡くなりました。つい昨年まで「お前のやり方では会社は潰れる」と言われ続けていた。私も甥を見て

いるとあれこれ言いたくなるので、親からすると子どもがいくつになんでも不安な気持ちはわかるようになりました。でも70歳になったら、もう絶対に口出しません。ただ創業者の努力や親戚やいろんな人の応援があってこそ、今の会社があることを忘れないで欲しいですね。

村上 同じようなことですが、会社があるのは従業員のおかげ。経営者になっても天狗にならず、思いやりのある経営をして欲しいと思っています。

福地 「私は好きだからこの仕事をやっている」とよく甥に言っているんです。まずは仕事を好きにならないとダメ。誰かのための仕事では、言い訳になる。好きになればおのずと責任も持てますし。

村上 まったく同感ですね。仕事を好きになることが大切だと思います。それが根底にあればこそ、取引先からも信頼を得られるはずですから。

モビトーク | 編集後記

お2人とも「2代目社長」で、「父親」でもある「先代社長」を強く意識していました。面白かったことは、いずれも先代社長の「やり方」を反面教師として出発しているのに、いざ社長となると、先代が残した「技術」や「やり方」のすごさにあらためて気づかされていることです。言葉の端々に先代への想いが感じられる一方、同じように次世代への想いもありました。みんなの「想い」が次への「道標」となる。そんな風に思いました。



TODAY'S MEMBER



「鉄は冷たい間に鍛て！」。

既成概念にとらわれないものづくりを。

1961年創業。長年培ってきた冷間鍛造および金属プレス加工の技術で、自動車部品をはじめ各種の金属部品を製造してきた。その高い技術力は業界でも広く知られている。さらに工程設計や金型設計制作も社内でおこなうため、さまざまな形状の開発データや多様な粗形状の予備金型を豊富に蓄積し、低コストでの小ロット、短納期に対応。また「鉄は冷たい間に鍛て！」という印象的なキャッチコピーが示すように、ものづくりにおいても発想の転換、創意工夫を欠かさない。

福地金属株式会社

大阪市平野区加美北 3-6-21

TEL 06-6791-7176

<http://www.fukuchi-kinzoku.jp/>



絶対にNOとは言わない、チャレンジ集団。独自の超精密加工技術で宇宙産業にも挑戦。

1948年の創業以来、精密機械部品の製造を一貫して手掛け、工作機械や精密測定器などの高精度化に貢献。特に「きさげ」の技術は現在の機械加工では実現できない高精度平面加工を職人の手によって一品一品手作業で仕上げていく非常に高度な加工技術。また培った技術を生かし、1000°Cを超える燃焼温度に耐える難削材のロケットエンジン用燃料バルブやノズル部品の試作・製造、同社開発のロータリーエンジン技術を用いた再エネ発電システムなど、高度な技術製品の開発と挑戦を続けている。

村上精機株式会社

堺市堺区山本町 5-97-3

TEL 072-238-1649 / 072-232-5693

<http://www.murakamiseiki.co.jp/>

